

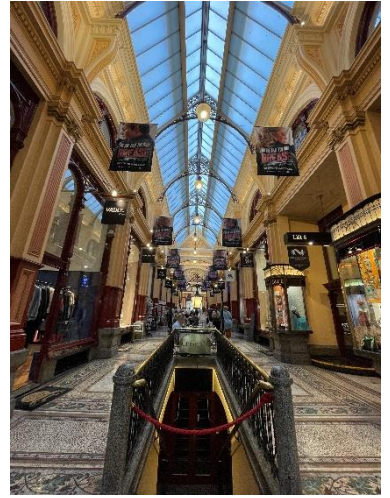
2024年 春季参加報告書

参加プログラム：ディーキン大学

参加時の学年：2年、学部：国際教養、学科：国際教養学科グローバルスタディーズ専攻

国際教養学部にいたため、授業で英語を使う機会はたくさんあったのですが、なかなか日常生活で使う自然な会話表現を身につけたり躊躇せずに海外の人が困っていたら助けたいと思い、留学を決めました。1ヶ月だったため急激に英語が伸びた感覚はないが、話しかけることへの恐怖感やつたない英語でも伝わることを知ることができ自信に繋がりました。また、英語に対するモチベーションがかなり上がりました。

私は、ディーキン大学の Buddy Project という現地の学生とバディーを組んで週一くらいで会って会話をするプロジェクトに申し込み、現地の学生が同世代の日本人で同じくらいの年齢でペラペラに話せる姿を見てとても刺激になりました。語学学校はほぼ日本人のため俗語などを学べるとても良い機会になりました。毎日少しでもネイティブの英語に触れられるようにポッドキャストやインスタを使って日々新しい単語はノートやスマホのメモ機能を使って記録して日々見返していました。日本の学校では習わない会話表現も学ぶことができるし、日本でもできるので継続していこうと思いました。



語学学校は 10:00-15:30 でそこまで遅くまで授業ではなかったため、学校が開催している行事などに積極的に参加しました。スポーツは現地の学生と話せるとてもいい機会だと思います。私はフリスビーがとても楽しかったです。知らない人とペアを作った時は不安でしたが、終わる頃には拙い英語でしたがスポーツと会話を通して仲良くなることができました。色々な行事はとりあえず申し込んでみるのが大切だと思います。何が良いきっかけになるかわからないのでまっすぐ家に帰って部屋でこもるよりも何か楽しみを見つけて過ごすの良い思い出にもなるし、英語の勉強にもなると思います。学校や行き帰り、ホームステイ先でもわからないことがあったら質問するのが大切だと思います。下手な英語でも何も聞かないで間違った使い方をする方がお互いに困ってしまいます。ジェスチャーや最悪翻訳を使ってでも聞いた方が好印象なのと聞いた方が早く解決することが多かったです。私は、方向音痴なのでバスに乗り慣れるまでかなり時間がかかりました。また、遅延などをする時は尚更ですが、運転手や係りの人に聞けば教えてくれるので迷わずに済みます。私も留学に行く前までは授業で

発言するのも躊躇いがちでしたが、周りは誰も知らない人だと思って積極的に質問や答えを発言すると自信に繋がりと、毎日楽しくなると思いました。先生とのコミュニケーションもとりやすくなると思いました。発言するまで自信がなかったら先生の目を見て相槌したりするといと思います。

週末は、友達と出掛けて観光地に行ったりお土産を買いに行ったりしました。1ヶ月はあつという間なので 1 日家にいると勿体ないくらいメルボルンは行くべき場所がたくさんあるので YouTube など Vlog を見たりして行きたいところに行っていました。いい気分転換にもなり楽しかったです。また、お菓子のお土産を買う時におすすめなのが最後にまとめて買わないことだと思いました。時期によって半額になったりすることも頻繁にあるため色々な時期で違うスーパーも見比べて買うとお得だし、楽しいと思います。学校の授業で市街地に校外学習をすることもありました。美術館や歴史ある建物を見たりして後日に簡単なプレゼンをしたりと英語だけでなくオーストラリアやメルボルンの多くの魅力を学ぶことができました。

この留学のおかげでメンタル面の成長と英語に対するモチベーションがかなり上がったと思います。生の英語はとても刺激になりました！

